

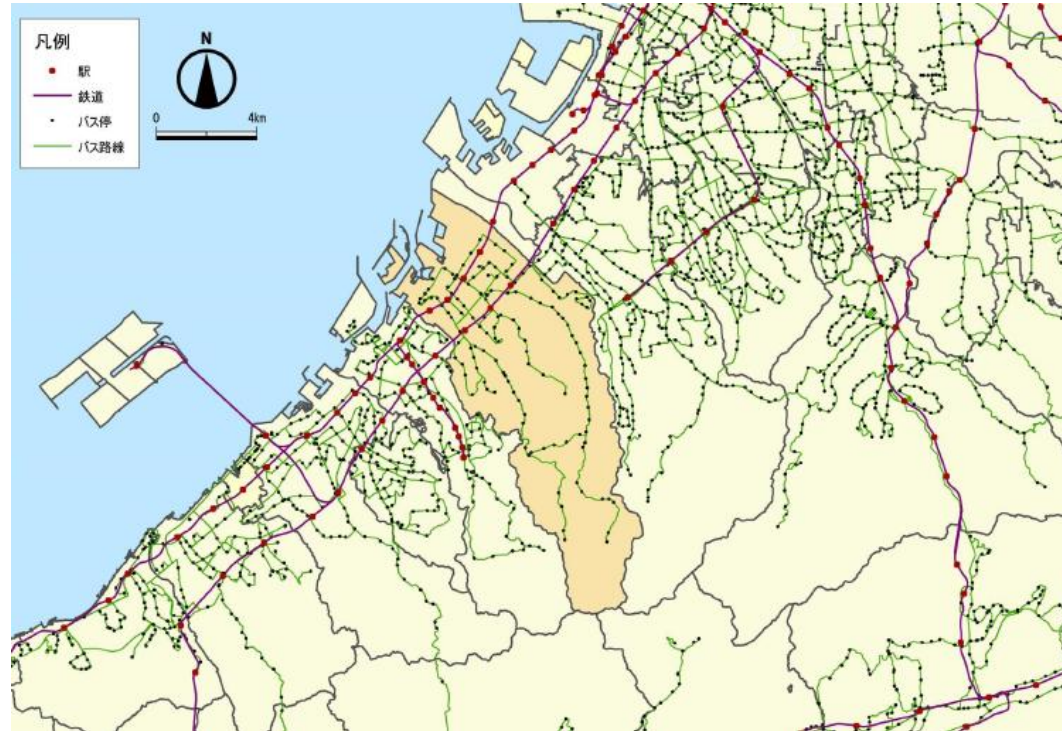
## ■交通まちづくりアクションプランの策定にあたって

### 【交通の概況】

市域の道路網は、臨海部の阪神高速湾岸線など、南北方向の利便性は高くなっている一方、東西方向については都市計画道路等の整備が道半ばであり速達性が確保されていない状態である。

また、鉄道については、南海本線とJR阪和線の2路線があり、市域内には南海線に4駅、阪和線に3駅、合計7駅が立地している。本市で最も利用の多い駅である南海岸和田駅においては、近年、利用者数が漸減傾向となっている。平成14年時点ではほぼ同程度の2.5万人の利用者数であった和泉府中駅（和泉市）が、10年後の平成24年には3.1万人と大幅に増加する一方、南海岸和田駅は約2.3万人となっており、泉州地域における地域核としての機能低下が懸念される状態にある。

さらに、バス交通に関しては、南海岸和田駅を起終点として平地部の公共施設を巡回バスするローズバス、岸和田駅等と山手地域を連絡するように南海ウイングバス南部株が運行しているものの、利用者数の減少が進んでいる状態にある。



### 【交通まちづくりアクションプラン策定の必要性】

公共交通の大半を担う自動車交通のバス交通に関する取組みとして、平成22年度から26年度にかけて、市域内々交通に着目した試験バス運行を含めた市内バス交通のあり方検討を進め、課題の可視化に努めてきた。

一方で、市民の活動や移動の範囲は自治体区域を超えており、これまでの単体の交通手段・局所的な施策では対応できない事象が顕在化する等、市民等の移動を支える交通環境に多様な課題を有する状態にある。

このようなことから、本市だけでなく泉州地域の将来動向を見据えて、顕在化する課題を明確にした上で、その改善に資する施策展開が求められている状況となっている。

### 【交通まちづくりアクションプランのねらいとアウトプットイメージ】

①岸和田市まちづくりビジョン、都市計画マスタープラン等を上位計画として、岸和田市公共交通検討委員会から市長に手交された提言に示されている「将来にわたって、みんなが使える公共交通サービスを実現する」といった基本方針等を踏まえ、交通まちづくりの基本理念や方向性を明確にする。

②「岸和田市まちづくりビジョン経営計画」や「市長公約の行政施策化ロードマップ」等から交通関連施策を抽出しつつ、目標達成に必要な公共交通方策と様々な施策の組合せ等、実効性のある枠組みを備えた交通とまちづくりを一体的に捉えた戦略的プランとして機能させる。

③なお、既定個別計画に交通まちづくりアクションプラン策定過程での検討内容をフィードバックすることで、各分野で実施する施策が交通体系全体からみて最大限に効果を発揮させるように努める。

### 交通まちづくりアクションプランのイメージ

